

# 序 論

## 第五次須恵町総合計画（後期計画）

- 【1】総合計画策定の趣旨
- 【2】総合計画の構成と期間
- 【3】これからの社会展望と須恵町の現状
- 【4】まちづくりの基本的課題

# 1 総合計画策定の趣旨

須恵町は、平成23年3月、まちづくりの基本理念や分野別施策を示した「第五次須恵町総合計画」を策定し、経営的視点に立った計画的なまちづくりを進めています。

昭和46年3月策定の「第一次須恵町総合計画」から「第四次須恵町総合計画」まではすべて10年を単位とし、その時代に即した計画運営を進めてきましたが、めまぐるしく変化する現代の社会情勢に対応するため、第五次須恵町総合計画では、平成23年度を初年度とし、平成27年度までの5年を「前期計画期間」、平成28年度から平成32年度の5年を「後期計画期間」と定め、平成28年3月、前期計画期間の施策検証を踏まえ、計画全体の見直しを行いました。

中央から地方への権限移譲の加速化や地方自治体の独自性を問われる今日において、この計画を町民と行政が協働して取り組むまちづくりの指針と位置付け、目標に沿った計画の推進を図ります。

# 2 総合計画の構成と期間

本計画は平成23年度を初年度とし、平成32年度までの10年を計画年次とし、地域づくりの方針を示す「基本構想」、行政各分野の計画を示す「基本計画」により構成しています。

「実施計画」は基本計画を受け、各分野における向こう3年間の具体的な事業を集めた「財務実施計画」として運用を行っていますが、「まち・ひと・しごと地方創生」における総合戦略策定などもあり、後期計画の構成から除外することとします。しかしながら、実施計画の運用は続けるとともに、総合計画進捗状況の基礎資料として活用します。

## (1) 基本構想

「基本構想」は、須恵町がまちづくりを行うための根本的な考えを示すもので、まちづくりは、この基本構想に基づいて進められます。第五次須恵町総合計画では、「基本理念」、「将来像」を置き、その実現のために実施される各施策の方向性を示しています。また、計画期間中「人口推計」を行い、目標人口数を定めています。

## (2) 基本計画

「基本計画」は、基本構想で定めた将来像と施策の大綱を受けて、その実現に必要な基本的な施策を分野別、体系的に示したものです。基本計画は計画期間を5年間とし、平成23年度から平成27年度までを「前期基本計画」、平成28年から平成32年までを「後期基本計画」とします。

# 3 これからの社会展望と須恵町の現状

## (1) 時代の潮流

### 1. 人口減少、少子高齢社会の到来

我が国の総人口は平成16年の約1億2,780万人をピークに減少局面に入り、今後本格的な人口減少社会を迎えます。国立社会保障・人口問題研究所の中位推計によると、平成32年には約1億2,410万人になると見込まれます。総人口に占める高齢者の割合は、平成22年には20%程度でしたが、平成32年には30%弱まで上昇すると見込まれます。

人口減少、高齢化にともない、地域の活力低下や高齢者単独世帯の増加などのほか、人口規模が縮小する中で豊かさの維持、労働力人口減少下におけるサービスの供給主体の確保、さらには、税収の減少によりこれらを支えていく地方公共団体の財政状況の悪化など多方面にわたる課題が考えられます。

### 2. 地球環境問題への対応

地球の気候は、様々な要因の影響を受けて変化しており、特に、地球温暖化は世界規模の問題として深刻化しています。世界の年平均地上気温の平年差は、長期的には100年当たり0.74℃の割合で上昇しています。

このようななか、我が国は、地球温暖化の抑制に大きな役割と期待があるとともに、国民が一体となった地球温暖化防止、自然環境の保全・再生、環境負荷の軽減、ごみの減量などの取組みが求められています。

### 3. 安全・安心意識の高まり

福岡西方沖地震、東日本大震災などの大地震や局地的な集中豪雨の多発などにもない、災害の増加や被害の甚大化の傾向がみられます。また、凶悪犯罪や少年犯罪の多発、振り込め詐欺が発生するなど、犯罪が悪質化、巧妙化しています。

### 4. 生活の「質」の向上に向けた成熟型都市づくり

人口減少・高齢社会の到来、モータリゼーションの進展、地球環境問題の高まり、厳しい財政的制約など、都市をめぐる社会経済状況は大きく変化してきています。地方都市の都市構造としては、郊外部での開発による拡大型の都市構造から、安定・成熟した都市型社会への移行に対応した計画的な土地利用が求められます。

### 5. 地域の文化や美しさの重要性の高まり

地方分権が進むなか、これまで培ってきた地域の美しさや文化をより一層重視する動きがみられます。他地域との差別化を図るため、地域資源を地域の誇りや観光資源として見つめなおし、まちづくりの一要素として活用することが求められます。また、国民意識においても、ゆとりや安らぎ、さらには心の豊かさに関する意識が高まっており、美しい景観や文化芸術などに対する重要性がこれまで以上に強まっています。

### 6. 人々のライフスタイルの変容

価値観や働き方の多様化、大都市居住者の地方圏・農山漁村への居住などによる住まい方の多様化により、様々なライフスタイルの選択が可能になっています。

このようななか、多様な働き方、住まい方、学び方などを可能とする多選択社会を実現するとともに、地方圏・農山漁村への居住などの動きをとらえ、地域の活性化などにつなげていくことが求められています。



## 7. 人々の健康志向の高まり

国民の生活の質の向上の視点から見ると、生活習慣の改善を通じた健康づくりを徹底することが重要であり、若い時からメタボリックシンドロームをはじめとした病気に対する予防を効果的に推進していくことが求められます。また、予防を重視し、生活習慣病患者を減らしていくことは、中長期的な医療費適正化の観点からも必要となっています。

このようななか、ウォーキング人口の増加や自主的な食生活の改善など、国民の健康志向は高まりつつあり、町民や企業と連携による自主的な健康づくりを促進する環境づくりや、地産地消による健康的な食の推進などに取り組んでいくことが求められます。

## 8. 飛躍的に発達した情報通信技術

近年の情報通信技術の飛躍的な発達は生活利便性を急速に向上させ、産業の生産性を高めるとともに、人と人のつながり方など、国民生活に大きな変化を与えています。情報通信技術を通じて、細分化された知識の結集や、空間を超えた人々の共同が実現し、いわば衆知の時代を迎えつつあります。

これらの情報通信技術の発達は、積極的に地域づくりや交流の活発化などにつなげていく必要があります。

## 9. 地方創生

我が国は世界に先駆けて「人口減少・超高齢社会」を迎え、政府は平成26年に、日本の人口の現状と将来の姿を示し、今後目指すべき将来の方向を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」およびこれを実現するため、5か年の目標や施策の基本的な方向、具体的な施策を提示する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」をとりまとめました。

地方公共団体においても、地域の特性を踏まえた「地方人口ビジョン」と「地方版総合戦略」を策定し、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生していく必要があります。

## (2) 須恵町の現状

### 1. 地勢

須恵町は、福岡県の中央部よりやや北西寄り、福岡市の東約10kmに位置し、北は篠栗町、東は飯塚市、南は宇美町、西は志免町および粕屋町に接しています。総面積は16.31 k㎡で、東部および北部は山地で県立太宰府自然公園指定地区に指定されている若杉山、岳城山がみられるなど自然に恵まれた環境にあります。町の中央部には須恵川が東西に流れ、中心部は町の南西部にあります。町の西部には粕屋町・志免町にまたがるボタ山が残っていますが、近年では町の北西部から南西部にかけて、福岡市のベッドタウンとしての開発が進んでいます。

### 2. 歴史

「須恵」という地名は古代の須恵器の生産に由来していると言われますが、須恵町において「須恵」という地名の初出は、中世になっています。平安時代になると佐谷に建正寺が開かれ、現存する仏像は豊かな仏教文化を今に伝えます。その後、13世紀には高鳥居城が築城、室町時代には大内氏筑前守護代の居城として、糟屋の中で重要な役割を果たしました。

須恵町は古来より農業を主産業としてきましたが、江戸時代には高名な眼科医がいたことから、製薬や売薬業も盛んになりました。17世紀中ごろ、上須恵の皿山に福岡黒田藩唯一の本格的な磁器御用窯が築かれ、有田焼などの技術を手本にした「須恵焼」が誕生しました。「須恵焼」は明治30年代まで約150年間作られ、幻の筑前磁器として珍重されました。また、当時は、佐谷、上須恵、須恵、新原、旅石、植木・本合にそれぞれ「村」がありましたが、明治10年頃に本合村が植木村に合併、明治22年には、佐谷村、上須恵村、須恵村、新原村、旅石村、植木村の6村が合併し「須恵村」となり、その後、昭和28年に町制施行により「須恵町」となりました。

明治時代から昭和30年代にかけては、良質な石炭が取れることから日本で唯一の国営炭鉱を中心に石炭産業が隆盛を極めました。エネルギー革命による炭鉱閉山後の昭和40年代からは、道路、生活環境、公共施設整備、住宅団地や工業団地の造成を進め、福岡市の発展とあいまって秩序ある発展を遂げています。



高鳥居城跡



旧須恵村役場



志免鉱業所



町制施行50周年記念式典

### 3. 人口

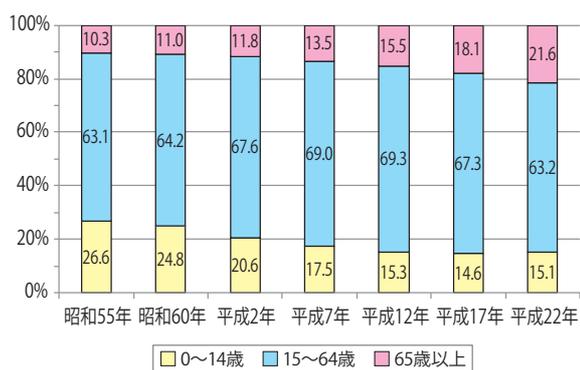
須恵町の人口は、全国的に人口減少社会が進展するなかで、福岡都市圏であることの優位性を活かし、平成22年で26,044人（国勢調査時点）と特にベッドタウンとしての人口増加が続いています。

年齢別人口をみると、人口のおよそ5人に1人が高齢者という状況にあり、高齢化が進展しています。

【須恵町の人口】



【須恵町の人口割合】



資料:国勢調査

### 4. 交通体系

鉄道は、JR香椎駅とJR宇美駅を結ぶJR香椎線が通り、町内にはJR須恵中央駅、JR新原駅、JR須恵駅の3駅があります。バスは、福岡空港や福岡市内を結ぶ3つのバス路線が運行されています。

また、平成22年2月1日よりコミュニティバスの運行が開始され、鉄道やバスが通らない地域の公共交通を補っています。

高速道路は九州自動車道が町内を縦断するように整備されています。町内には須恵パーキングエリアが上下線ともに設置されており、太宰府インターチェンジと福岡インターチェンジのほぼ中間に位置します。パーキングエリア内においては、国の社会実験を経て、須恵スマートインターチェンジ（ETC車載器搭載の軽・普通車限定）が平成18年10月より本格運用されています。

この須恵スマートインターチェンジは、上下線ともに設置され、地域の暮らしに欠かすことのできない重要施設として定着しています。

幹線道路網は町内の南北軸の幹線道路として県道35号筑紫野古賀線、東西軸の幹線道路として県道60号飯塚大野城線（ショウケ越）、福岡市の中心部にアクセスする県道91号志免須恵線（レインボーロード）の3つの県道が幹線道路として機能しています。



須恵町コミュニティバス

## 5. 産業の状況

須恵町の産業は、江戸時代の製薬、売薬業から、明治～昭和時代には石炭産業、工業団地の造成による第二次産業へと推移してきました。近年では、第三次産業の伸びが著しく増加し、特に道路貨物運送業が発展しています。

## 6. 町民の生活

### <教育>

学校教育施設は、保育所、幼稚園、認定こども園、小中学校、県立高等学校があります。次世代を担う子ども達の「感動する心」「感謝する心」「共感する心」の3つを教育目標とし、心の教育に取り組んでいます。

社会教育施設は、アザレアホール須恵（須恵文化会館）、カルチャーセンター、図書館、歴史民族資料館、美術センター久我記念館などがあります。



アザレアホール須恵



カルチャーセンター

### <保健・医療・福祉>

保健活動・保健サービスの拠点として保健センターがあり、健康づくりの普及指導を行い、身近な保健サービスを提供しています。

医療施設は、施設数および病床数をみると、近年は一定を保っており、水準を維持しています。

福祉は、在宅介護支援センターや介護サポートセンターと連携して、高齢者の多様で高度なニーズに対応するとともに、高齢者が安心して暮らせる環境づくりに取り組んでいます。

児童福祉は、保育所、認定こども園、学童保育所などがあり、保護者が安心して子育てできる環境づくりに取り組んでいます。

障がい者福祉は、相談支援体制などを充実させ、障がい者が自立した日常生活、社会生活を営むことができる環境づくりに取り組んでいます。

### <生活環境>

住宅地は、町域の約23%を占め、戸建住宅を中心とした低層で良好な環境が形成されています。また、近年は共同住宅の建設も見受けられます。

工業地は町域外周部に一体的な団地として形成されているほか、一部の既存住宅地や集落地内には中小規模の工場などがみられます。山林・原野・雑種地は合わせて約46%、田・畑は合わせて約11%あります。

<町民活動>

須恵町では、町民活動の基盤として『校区コミュニティ事業』を展開しています。校区コミュニティ事業は、「いつでも」・「どこでも」・「誰でも」・「世代を超えて」を合言葉に、小学校区を単位とし、地域住民が色々な立場でまちづくりに関わり、支えていく『生涯学習社会の実現』を目指しています。

須恵第一小学校区は「すこやかコミュニティ」、須恵第二小学校区は「いきいきコミュニティ」、第三小学校区は「ふれあいレインボー」と命名され、各小学校区それぞれの特色を生かした地域づくりが行われています。



すこやかコミュニティ主催「すこやか秋まつり」



いきいきコミュニティ主催「べったんフェア」



ふれあいレインボー主催「ふれあい夏まつり」



## 4 まちづくりの基本的課題

これからの社会展望や特性などを踏まえると、今後の須恵町の基本的課題は、以下のような考え方ができます。

### (1) 自立した町民活動、コミュニティづくり

第四次総合計画の成果として、校区コミュニティの活動が盛んに取組まれています。特定の人に参加しているなど、改善すべき状況にあります。地域の課題は地域で解決するためにも、自立した町民活動を行う人材の育成が重要です。

また、町民アンケート調査によると、今後のまちづくり活動への参加意向として、機会があれば参加し、意見や提案をしたいという参加意向は強く、町民全員が一致団結をし、コミュニティづくりを行う必要があります。

### (2) 地域資源を活かした個性あるまちづくり

須恵町には、県指定や町指定の文化財があるほか、若杉山の自然環境など、豊富な地域資源があふれており、これらの地域資源を活かして、自分の住む地域に愛着と誇りを感じられるまちづくりを推進していくことが求められています。

子ども達が須恵町に住み続けたいと思うような魅力的なまちをつくる必要があります。

### (3) 人口減少、少子高齢社会への対応

須恵町は、福岡市に近接し、福岡市のベッドタウンとしての開発により人口は増加していますが、人口増加と並行して、今後は、高齢化が進むことが予想されています。

誰もが健康でいきいきと住み続けられる環境を形成するために、安心して子どもを産み育てることのできるよう、子育てサポート体制を充実させるとともに、いつまでも健康で生活できるような日頃から食生活の改善と自然食の普及、疾病予防、体力づくりに励むことで、健全な町民の育成を推進する必要があります。

また、学校・家庭・地域が連携、協力して、それぞれの教育力の更なる向上を図り、幼児期からの学習環境づくりと活力と誇りある学校づくりに取組み、次世代を担う人材を育成する必要があります。

### (4) 身近な生活環境の安全性・快適性の向上

町民アンケート調査によると、町民のほとんどが、住みやすいと感じ、今後も住み続けたいという意識が高いものの、身近な生活環境や生活基盤、利便性にやや不満を感じていることがわかります。

また、防災や交通安全対策、防犯も含め、町民の生活を守るために地域と行政が手を取り合い取り組む必要があります。

須恵町の恵まれた自然環境のもと、安全・安心に快適に暮らせるまちを形成する必要があります。

### (5) めまぐるしく変わる社会情勢に対応できる行政運営

激変する社会情勢や新たな潮流に対応するため、課題の的確な把握と、課題解決に向けた選択と集中による施策を展開する必要があります。

町民アンケート調査においても住民に開かれたわかりやすい町政運営や地方分権化に対応した財政計画は重要度が高く、町民の視点に立った行政の運営、広域連携、今後も進められる地方分権などに対応するため、自治体として力をつけるとともに、行政職員の更なる資質向上を図る必要があります。

また、人口急減・超高齢化という我が国が直面する大きな課題に対し、地方公共団体においては、それぞれの特徴を活かした魅力あふれるまちを築き、活力にあふれた地方の創生を行うことが急務となっており、須恵町においても、職員が高い意識をもって積極的に施策を検討・実施していく体制を整える必要があります。

【参考】

時代の潮流

- ①人口減少、少子高齢化社会の到来
- ②地球環境問題への対応
- ③安全・安心意識の高まり
- ④生活の「質」の向上に向けた成熟型都市づくり
- ⑤地域の文化や美しさの重要性の高まり
- ⑥人々のライフスタイルの変容
- ⑦人々の健康志向の高まり
- ⑧飛躍的に発達した情報通信技術
- ⑨地方創生に対応したまちづくり

須恵町の特徴

<強み>

- ・福岡市のベッドタウンとしての開発による人口増加
- ・都市部への優れたアクセス
- ・文化施設・社会教育施設が充実
- ・ポテンシャルの高い地域資源

町民ニーズ(町民アンケート)

<重視すべきキーワード>

- ・「安全・安心」「自然の豊かさ」「積極的な情報提供」

町民ニーズ(ワークショップ)

<重視すべきキーワード>

- ・「自然」「安全・安心」「コミュニティ・ボランティア」「子育て」「健康」「活気」「商業」

強みを活かし弱みを克服するまちづくり

<弱み>

- ・今後は人口が減少し、高齢化、少子化が進む
- ・身近な生活道路の整備
- ・産業の衰退
- ・高齢者の事故の増加

<求めること>

- ・都市基盤・生活基盤の整備
- ・産業の振興

<求めること>

- ・健康に対する意識啓発
- ・公共施設と場所の偏りの解消
- ・地産地消の実施
- ・雇用の場づくり
- ・町民全員が参加するコミュニティ

基本的な課題

- 1.自立した町民活動、コミュニティづくり
- 2.地域資源を活かした個性あるまちづくり
- 3.人口減少、少子高齢社会への対応
- 4.身近な生活環境の安全性・快適性の向上
- 5.めまぐるしく変わる社会情勢に対応できる行政運営